

大切なのは行動すること 心に響いた「ありがとう」

海星学院高 釜石支援報告



ボランティアについて講演する海星学院高生

同校では2012年(平成24年)から年1回、希望する生徒数人を同市に派遣。今年は7月8〜12日の4泊5日間、奈良岡圭吾君(2年)ら1、2年生6人が赴いた。

この日、生徒らは1人ずつ演壇に立ち、パワーポイントを使いながら活動内容や現地の状況、被災者との触れ合いを振り返った。

高齢者の傾聴ボランティアで最初は何を話せばいいか分からなかったが、徐々に打ち解け「最後に笑顔で『ありがとう』と言ってくれた」などの感動体験が次々と語られた。

全国的な建設ラッシュによる人手不足で、工事が大幅に遅れている現状を説明し「まだまだ復興はこれからだと感じた」との意見もあった。

また、現地で聞いた言葉「ボランティアは大河の一滴」を挙げ「たとえ小さな取り組みでも、一滴一滴の水のバトンをつなげていかなければと思った」と継承の大切さを強調。「自分一人では何も変わらないと思っていたが、大切なのは行動することなのだと思いついた」と、成長ぶりを話す生徒もいた。

東日本大震災被災地の岩手県釜石市でボランティアに取り組んだ室蘭・海星学院高校(香川謙二校長)の1、2年生6人が15日、室蘭東ロータリークラブ(佐々木彰夫会長)の10月例会に招かれ、会員22人を前に復興の現状や感想について講演した。

(山田晃司)